

安心安全な住みよいまちをめざして

平成25年度
決算報告

一般会計 歳出総額 **99億4,761万3千円**

一般会計の決算は、歳入105億4,218万8千円、歳出99億4,761万3千円で、差額5億9,457万5千円を平成26年度に繰り越しました。

会計別決算状況

(単位：千円)

会計名	歳入	歳出	差引
一般会計	10,542,188	9,947,613	594,575
国民健康保険特別会計	4,523,168	4,261,750	261,418
公共下水道事業特別会計	846,415	804,039	42,376
中部特定土地区画整理事業特別会計	214,401	180,057	34,344
介護保険特別会計	1,863,838	1,775,490	88,348
後期高齢者医療特別会計	252,817	252,774	43
合計	18,242,827	17,221,723	1,021,104

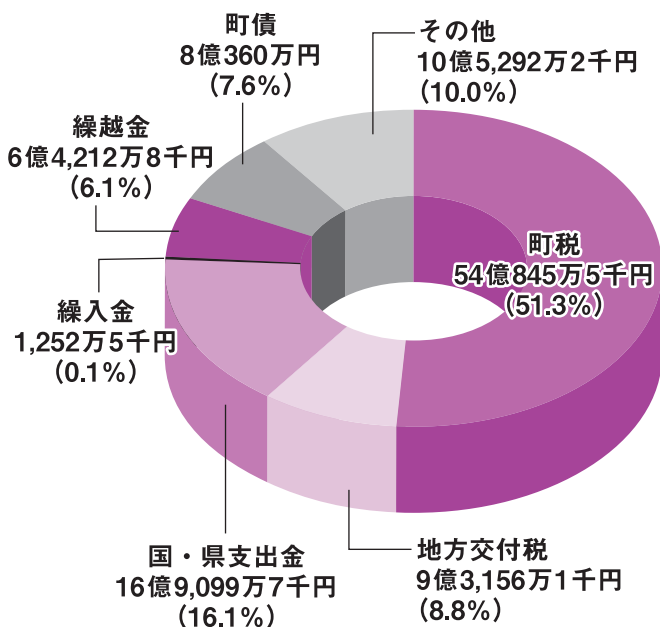
予算区分	収入	支出
水道事業	収益的	884,865
	資本的	684,036

資本的収入額が、資本的支出額に不足する額675,304千円は、建設改良積立金、減債積立金等で補てんした。

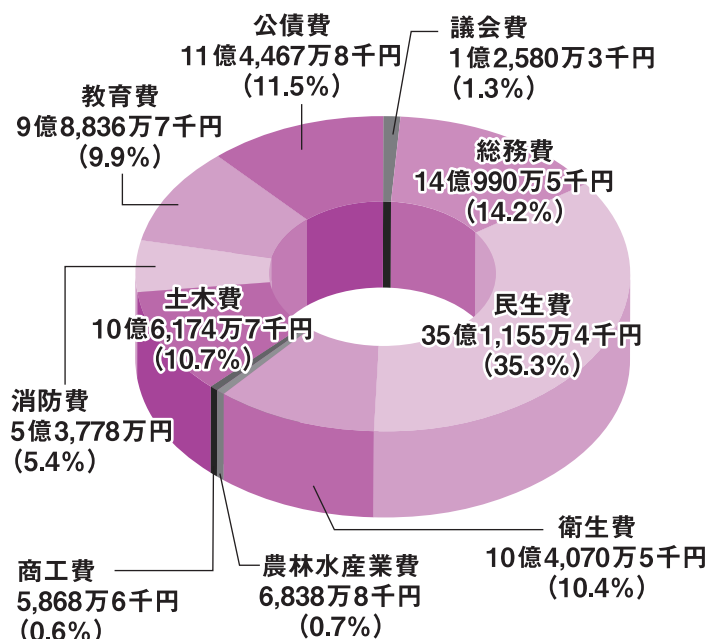
※収益的の収支…水道水を供給するなどの営業面の収支

資本的の収支…配水管の布設などの改良事業面の収支

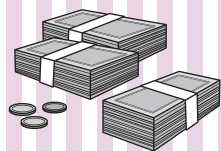
歳入 105億4,218万8千円



歳出 99億4,761万3千円



町の財政状況



平成25年度決算統計をもとに、町の財政状況をお知らせします。

経常収支比率

90・2%

人件費、扶助費、公債費などの毎年継続して固定的に支出される経費が、町税、地方交付税などの経常的な一般財源総額に占める割合を経常収支比率といえます。

経常収支比率は、財政構造の弾力性を計る指標で、この数値が高いほど財政の弾力性がないことを示します。

町の比率は、前年度と比較し、0.8ポイントの上昇となりました。

実質公債費比率

10・5%

町が借り入れたお金（地方債）の元金および利子の償還に必要な経費を公債費とい

ます。

実質公債費比率とは一般会計の公債費および公営企業会計の公債費に充てられたとみなされる金額と町の経常的な一般財源総額の割合のことを指します。この数値が高いほど、返済の負担が大きいことを示します。

町の比率は、前年度と比較し、1.0ポイントの低下となりました。

町の借入金

118億9,549万円

町では、国が発行する赤字国債のような赤字補てんのための借入はできませんが、地方財政法の定めるところにより地方債として借入をすることができま

す。25年度の地方債の発行額は、町道整備事業債、消防緊急車両購入事業債、臨時財政対策債等の発行を行い、前年度に比べ2,260万円、2.7%の減となりました。

平成25年度実施の主な事業

一般会計のお金の主な使
いみちを紹介します。

● 総合振興計画策定事業

6,166千円

● 羽貫駅前広場整備事業

2,500千円



六道駐在所が廃止され、羽貫駅前に交番が新設されることに伴い、駅前広場の整備を実施しました。

● 男女共同参画の集い事業

1,247千円

● 福祉三医療費支給事業

251,336千円

● 各種予防接種実施事業

113,334千円

● 各種がん検診等実施事業

49,796千円

● 用排水路維持管理・整備事業

8,309千円

● 商工業活性化事業

12,010千円

● 観光振興事業

11,012千円

● 町道整備事業

104,200千円



がんセンター移転に伴う周辺道路の整備をはじめ、町道の改良工事を実施しました。

● いな穂街道整備事業

78,270千円

● 街区公園等整備事業

11,713千円

● 消防救急無線デジタル事業

1,106千円

● 消防緊急車両（高規格救急車）購入事業

27,200千円



消防力の向上をはかるため、高規格救急車を1台更新しました。

● 高機能消防指令センター整備事業

18,850千円

● 教育センター運営事業

6,729千円

● 小・中学校整備事業

74,905千円